

5-11 自然との触れ合い活動の場

5-11-1 現況

自然との触れ合い活動の場は、自然公園や緑地保全地区などの自然の観察、体験、学習、研修等の機能を有する場、野草・野鳥観察や水辺散策など自然散策の機能を有する場、キャンプ場、海浜、磯、釣り場などレクリエーション機能を有する場を対象とした。

表 5-11-1 に示す情報をもとに現況の自然との触れ合い活動の場について整理した（図 5-11-1 (p5-11-3) 参照）。会場の集中する 8km 圏内の公園のうち会場が含まれる公園緑地は、海上公園、総合公園、特殊公園（動・植物）であり、公園管理者である（財）東京都公園協会・国民公園協会・東京都 HP の情報に基づいて公園区分を整理すると、海上公園（東京都港湾局）、国民公園（（財）国民公園協会）、都立公園（（財）東京都公園協会）が対象となる。

会場の集中する 8km 圏内の公園のうち、会場エリア内又は近傍に位置し、緑地や水辺のある公園は、明治公園（オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）、東京体育館）、皇居外苑（北の丸公園）（日本武道館）、有明テニスの森公園（有明テニスの森）、お台場海浜公園（お台場海浜公園）、潮風公園（潮風公園）、大井ふ頭中央海浜公園（大井ホッケー競技場）、若洲海浜公園（若洲オリンピックマリーナ）、葛西臨海公園（葛西臨海公園）、夢の島公園（夢の島ユース・プラザ・アリーナ A、B、夢の島公園、夢の島競技場）、辰巳の森海浜公園（オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナ）、晴海ふ頭公園（選手村）の 11 公園（16 会場）である。

8km 圏外に位置する会場で緑地・公園緑地以外の公園指定がされているのは、武蔵野の森公園（武蔵野の森公園）、宮城県総合運動公園（宮城スタジアム）、埼玉スタジアム 2002 公園（埼玉スタジアム 2002）、新横浜公園（横浜国際総合競技場）の 4 公園（4 会場）である。

表 5-11-1 自然との触れ合い活動の場に関する情報

資料	区分	自然との触れ合い活動の場	自然との触れ合い活動内容
「東京都都市計画地理情報システム、都市計画公園・緑地、平成 16 年、東京都」 （図 5-11-1 (p5-11-3) 参照）		● 緑地 ● 公園緑地（総合公園・特殊公園・海上公園等）	—
● 財団法人東京都公園協会 HP ● 財団法人国民公園協会 HP		● 都立公園 ● 国民公園	—
● 東京都港湾局 HP （海上公園ガイド） ● 財団法人東京都公園協会 HP ● 財団法人国民公園協会 HP		—	● 釣り・磯遊び ● 潮干狩り・親水利用 ● キャンプ ● 自然（野鳥・野草）観察 ● 自然（水辺）散策

また、東京都港湾局、(財)東京都公園協会、(財)国民公園協会、各公園のホームページを参考に、公園内における主な自然との触れ合い活動内容を整理した(表 5-11-2 参照)。

自然との触れ合い活動を行う上で重要な機能を担う場所として、砂浜・磯浜・キャンプ場・釣り場・観察場等、その周縁部で付帯的な機能を担う場所として、芝生・樹林等が存在する。

都心部に位置する自然との触れ合い活動の場は、人々の生活に潤いや安らぎを与え、都民の憩いの場や環境学習の場として貴重な空間となっている。特に会場が多数配置されている水辺は、景観的にも優れ多様な生物が生息・生育することから、その価値が高いといえる。

表 5-11-2 8km 圏内における会場周辺の自然との触れ合い活動の場と主な活動内容

公園名 (11 公園)	公園内・近傍の 会場名 (16 会場)	会場 No.	公園区分	公園内における 主な自然との触れ合い活動内容						
				釣 り	潮 干 狩 り	磯 遊 び	キ ャ ン プ	野 鳥 観 察	植 物 観 察	水 辺 散 策
明治公園	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	1	都立公園						●	
	東京体育館	2								
皇居外苑(北の丸公園)	日本武道館	4	国民公園						●	
有明テニスの森公園	有明テニスの森	12	海上公園						●	
お台場海浜公園	お台場海浜公園	13	海上公園	●	●	●		●	●	●
潮風公園	潮風公園	14	都立公園						●	
大井ふ頭中央海浜公園	大井ホッケー競技場	17	海上公園	●		●		●	●	●
若洲海浜公園	若洲オリンピックマリーナ	21	海上公園	●		●	●		●	●
葛西臨海公園	葛西臨海公園	22	都立公園					●	●	●
夢の島公園	夢の島ユース・プラザ・アリーナ A、B	23～24	都立公園							
	夢の島公園	25							●	
	夢の島競技場	26								
辰巳の森海浜公園	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	27～28	海上公園						●	
晴海ふ頭公園	選手村	0V	海上公園	●					●	●

注) 表中の●は、各公園において行われている自然との触れ合い活動内容

注) 8km 圏外では、武蔵野の森公園(武蔵野の森公園)、宮城県総合運動公園(宮城スタジアム)、埼玉スタジアム 2002 公園(埼玉スタジアム 2002)、新横浜公園(横浜国際総合競技場)の 4 公園(4 会場)がある。

出典:「東京都港湾局 HP(海上公園ガイド)」、「財団法人 東京都公園協会 HP」、「財団法人 国民公園協会 HP」

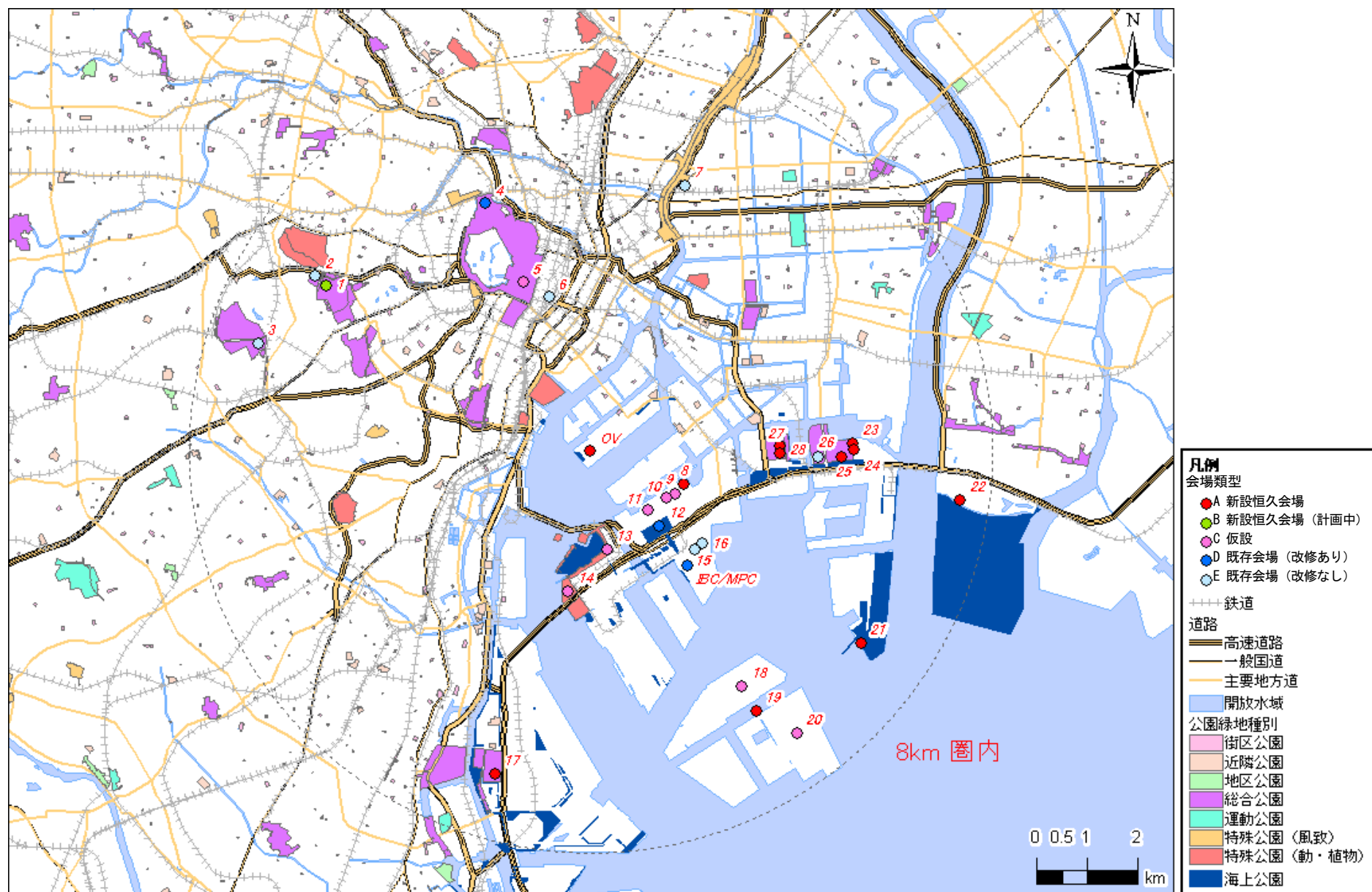


図 5-11-1 公園配置図

出典：「東京都都市計画地理情報システム、都市計画公園・緑地、平成 16 年、東京都」、図中の番号は表 1-3-37 (p1-85～1-86) に示す会場 No. を表す。

5-11-2 予測評価（会場別）

自然との触れ合い活動の場については、「自然との触れ合い活動の場の変化」と「自然との触れ合い活動の変化」を評価の指標とする。

5-11-2-1 自然との触れ合い活動の場の変化

(1) 評価の指標及び目安

自然との触れ合い活動の場の変化は、自然との触れ合い活動の消失又は改善・創出を評価の基準とした。

評価の指標及び目安は、表 5-11-3 に示すとおりである。

表 5-11-3 評価の指標及び目安

評価の指標	評価の基準	評価の目安				
		－ 2	－ 1	0	＋ 1	＋ 2
自然との触れ合い活動の場の変化	自然との触れ合い活動の場の消失又は改善・創出	自然との触れ合い活動の場の主要部又は半分以上を改変	自然との触れ合い活動の場の周縁部又は半分弱を改変	現況と変わらない	面積が増加（＋ 20 % 未満） 又は質的向上あり（一部）	面積が増加（＋ 20 % 以上） 又は質的向上あり（全般）

(2) 予測評価の方法

開催中(施設の使用による影響)、開催後(施設の使用による影響)については、自然との触れ合い活動の場の分布(緑被分布図；平成19年、国土交通省都市・地域整備局)と、会場内の改変区域を重ね合わせることで、施設の使用による影響、会場内における自然との触れ合い活動の場の変化について、定性的な予測評価を行った。

なお、開催前の工事に伴い改変される面積は工事の進捗とともに増加し、施設の使用時に最大となる。このため、開催前の工事による影響は、改変による影響が最大となる施設の使用による影響において予測評価を行うこととし、ここでは予測評価の対象外とした。同様に、開催後の工事による影響は、後利用において一定となる。このため、開催後の工事による影響はここでは予測評価の対象とせず改変による影響が一定となる後利用による影響において予測評価を行うこととし、ここでは予測評価の対象外とした。

自然との触れ合い活動の場の主要部として、自然との触れ合い活動を行う上で重要な機能を担い、改変されることで自然との触れ合い活動に直接的な影響を及ぼす場所を対象(砂浜、磯浜、キャンプ場、釣り場、観察場等)とし、周縁部として、自然との触れ合い活動を行う上での付帯的な機能を担い、改変されることで自然との触れ合い活動に間接的な影響を及ぼす場所(芝生、樹林等)を対象とした。

予測評価の対象とする会場は、工事により地表面が改変される26会場とした。

地表面が改変されない13会場(東京体育館、国立代々木競技場、日本武道館、皇居外苑、東京国際フォーラム、国技館、東京ビッグサイト・ホールA、B、東京スタジアム、札幌ドーム、宮城スタジアム、埼玉スタジアム2002、横浜国際総合競技場)は、影響要因が想定されないため、予測評価の対象外とした。

表 5-11-4 予測評価方法（会場別）

予測評価の時期		予測評価の方法
開催前	工事による影響	開催前の工事に伴い改変される面積は工事の進捗とともに増加し、施設の存在時に最大となる。このため、工事による影響は、改変による影響が最大となる施設の存在による影響において予測評価を行うこととし、ここでは予測評価の対象外とした。
開催中	施設の存在による影響	既存情報をもとに整理した自然との触れ合い活動の場の分布と、改変区域を重ね合わせることで、施設の存在による、自然との触れ合い活動の場の変化について、定性的な予測評価を行った。
開催後	工事による影響	開催後の工事に伴い改変される面積は工事の進捗とともに変化し、施設の後利用時に定常状態となる。このため、工事による影響は、改変による影響が一定となる後利用による影響において予測評価を行うこととし、ここでは予測評価の対象外とした。
	後利用による影響	既存情報をもとに整理した自然との触れ合い活動の場の分布と、改変区域を重ね合わせることで、仮設の撤去や施設の後利用による、自然との触れ合い活動の場の変化について、定性的な予測評価を行った。

(3) 予測評価の結果

1) 開催中（施設の存在による影響）

① 一次評価

会場内の施設の存在による、自然との触れ合い活動の場の変化について予測評価を行った。予測評価の結果は、表 5-11-5(p5-11-8)に示すとおりである。

会場毎に自然との触れ合い活動の場の分布（緑被分布図）と各会場の改変区域を重ね合わせた結果、会場エリアが自然との触れ合い活動の場となっている会場のうち 10 会場で、自然との触れ合い活動の場が改変されると予測した。

開催中における施設の存在により、若洲オリンピックマリーナでは、釣り桟橋は残るものの、キャンプ場と人工磯のほとんどが改変されることから、自然との触れ合い活動の場の主要部が改変されると予測し、評価結果は「－2」とした。

有明テニスの森、夢の島公園、夢の島競技場、選手村については、自然との触れ合い活動の場の半分以上が改変されることから、評価結果は「－2」とした。

会場エリアが自然との触れ合い活動の場となっている会場のうち、施設の存在により芝生、樹林が改変される 5 会場については、自然との触れ合い活動の場の周縁部が改変されると予測し、評価結果は「－1」とした。

対象とした会場のうち、上記会場を除くその他の会場については、現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。

自然との触れ合い活動の場が改変される会場について、自然との触れ合い活動の場と改変区域を重ね合わせたものを図 5-11-2(1)～(9) (p5-11-9～p5-11-14)に示す。

表 5-11-5 各会場における自然との触れ合い活動の場の予測評価結果（開催中：一次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測結果
12	有明テニスの森	－ 2	施設の存在により、自然との触れ合い活動の場の半分以上が改変されると予測した。 したがって、評価結果は「－ 2」とした。
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
0V	選手村		
21	若洲オリンピックマリーナ		施設の存在により、自然との触れ合い活動の主要部（キャンプ場、人工磯）が改変されると予測した。 したがって、評価結果は「－ 2」とした。
14	潮風公園	－ 1	施設の存在により、自然との触れ合い活動の周縁部（芝生、樹林）が改変されると予測した。 したがって、評価結果は「－ 1」とした。
17	大井ホッケー競技場		
22	葛西臨海公園		
27～ 28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
会場 No. 1, 13, 23～24, 31, IBC/MPC の 6 会場		0	施設の存在による改変部が、自然との触れ合い活動の場の主要部や周縁部ではない、又は半分弱に満たないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
会場 No. 8, 9, 10, 11, 18, 19, 20, 29, 32, 33 の 10 会場			自然との触れ合い活動の場となっていないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。



図 5-11-2(1) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(12 有明テニスの森)

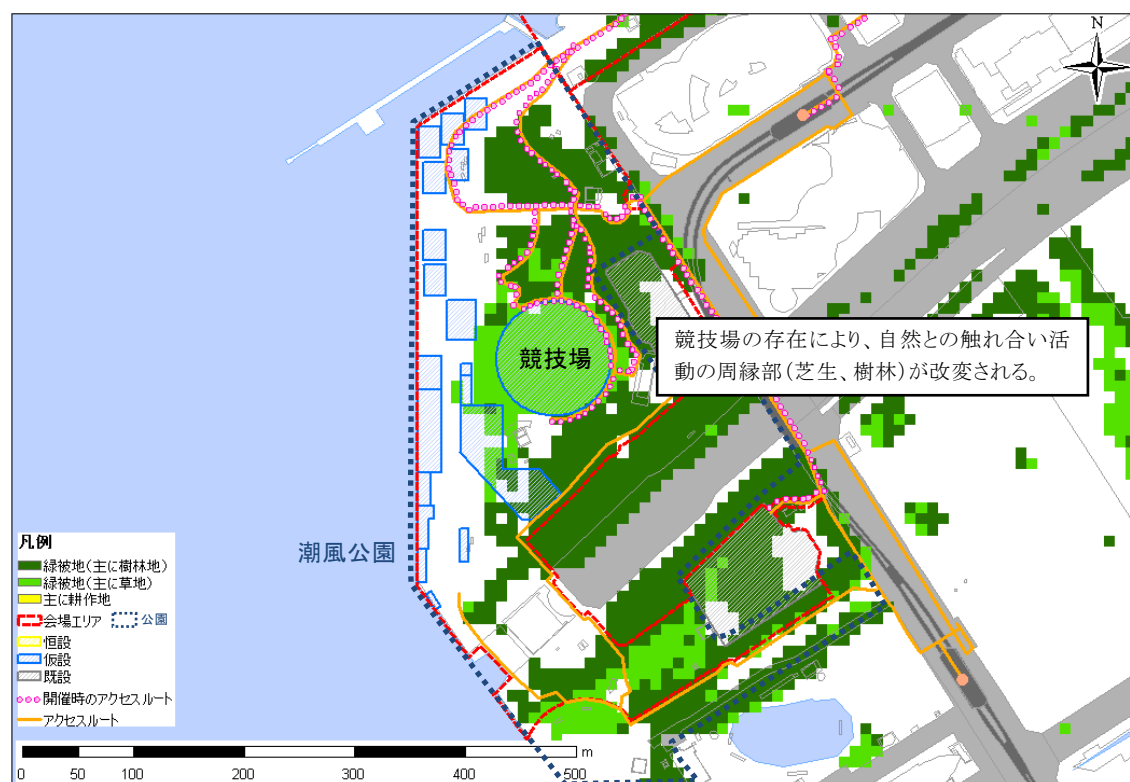


図 5-11-2(2) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(14 潮風公園)

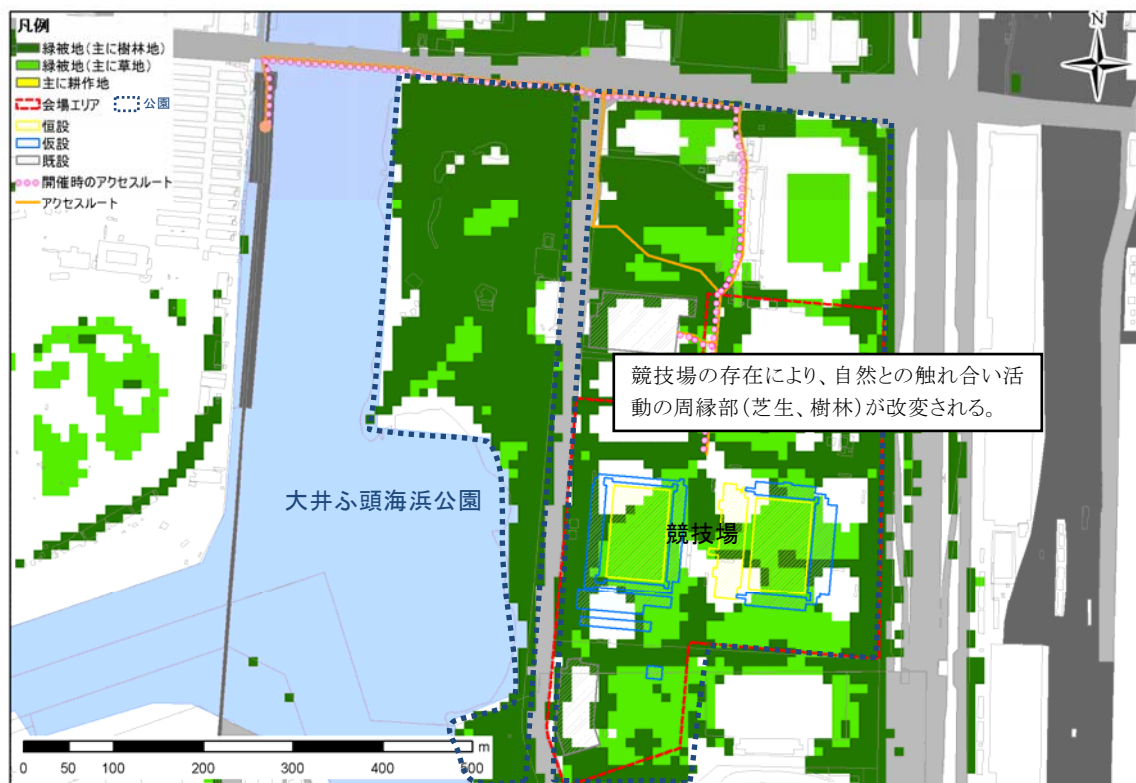


図 5-11-2(3) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(17 大井ホッケー競技場)



図 5-11-2(4) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ
(21 若洲オリンピックマリーナ)



図 5-11-2(5) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(22 葛西臨海公園)

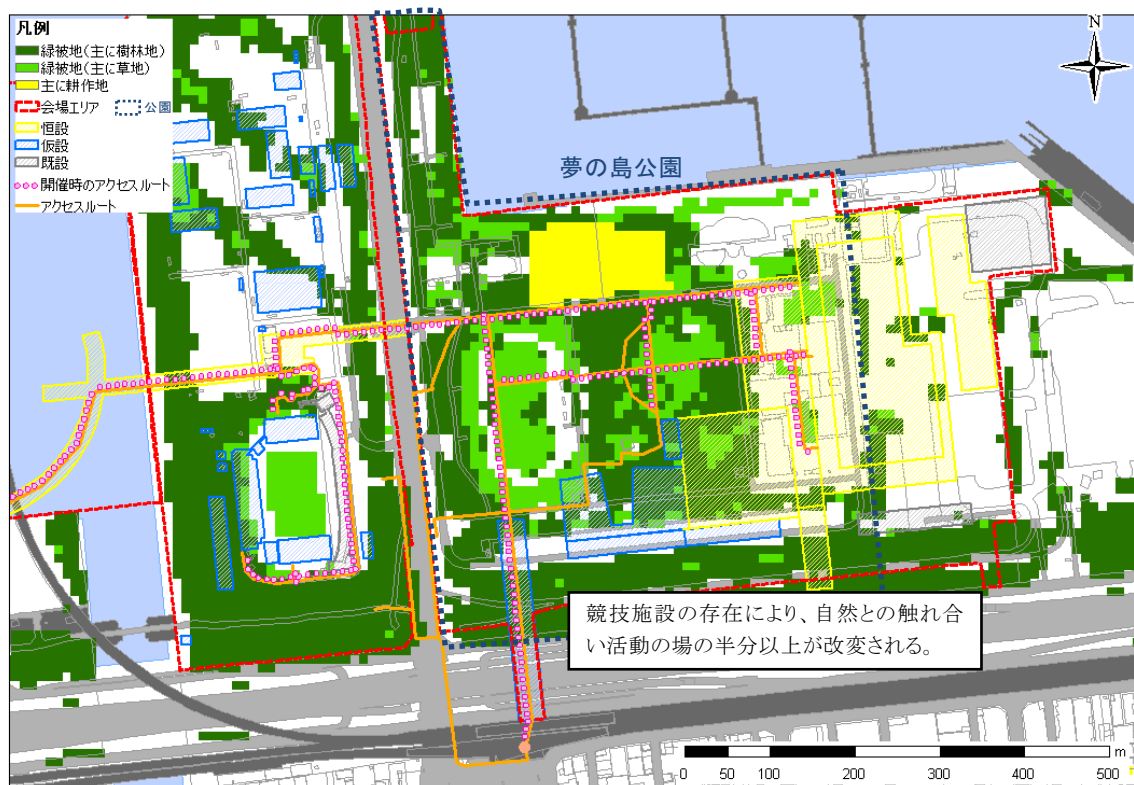


図 5-11-2(6) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(25 夢の島公園)

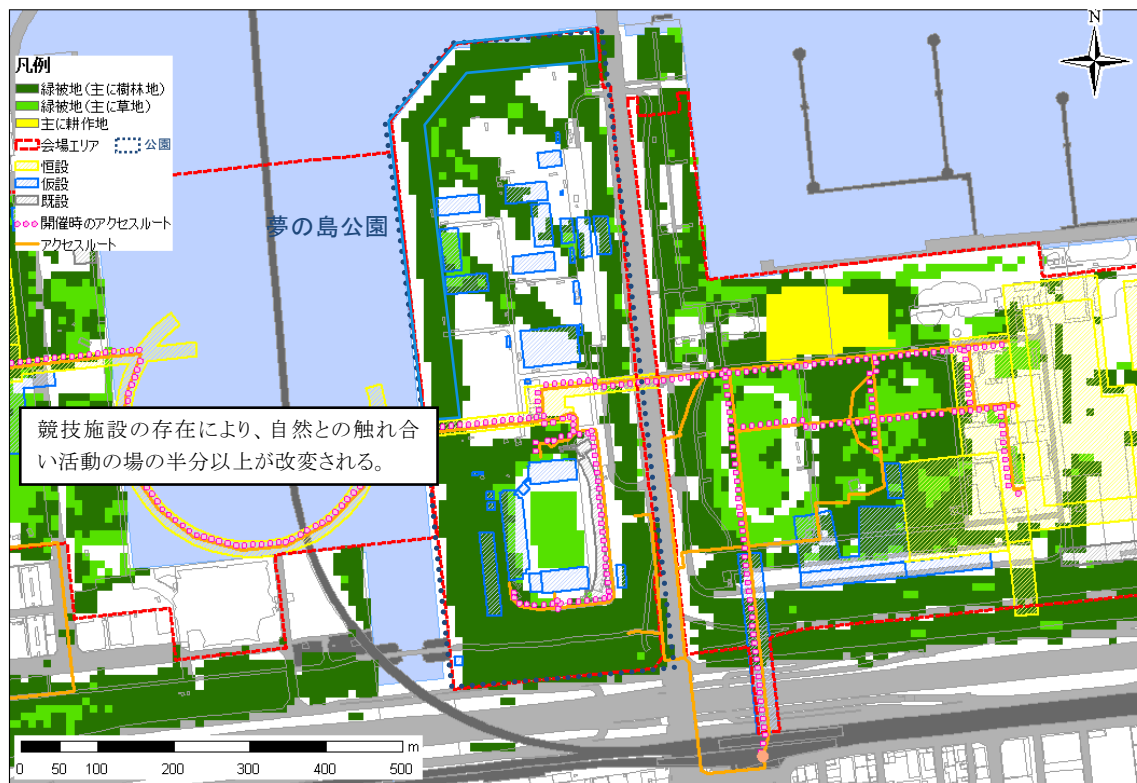


図 5-11-2(7) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(26 夢の島競技場)



図 5-11-2 (8) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ
(27～28 オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナ)

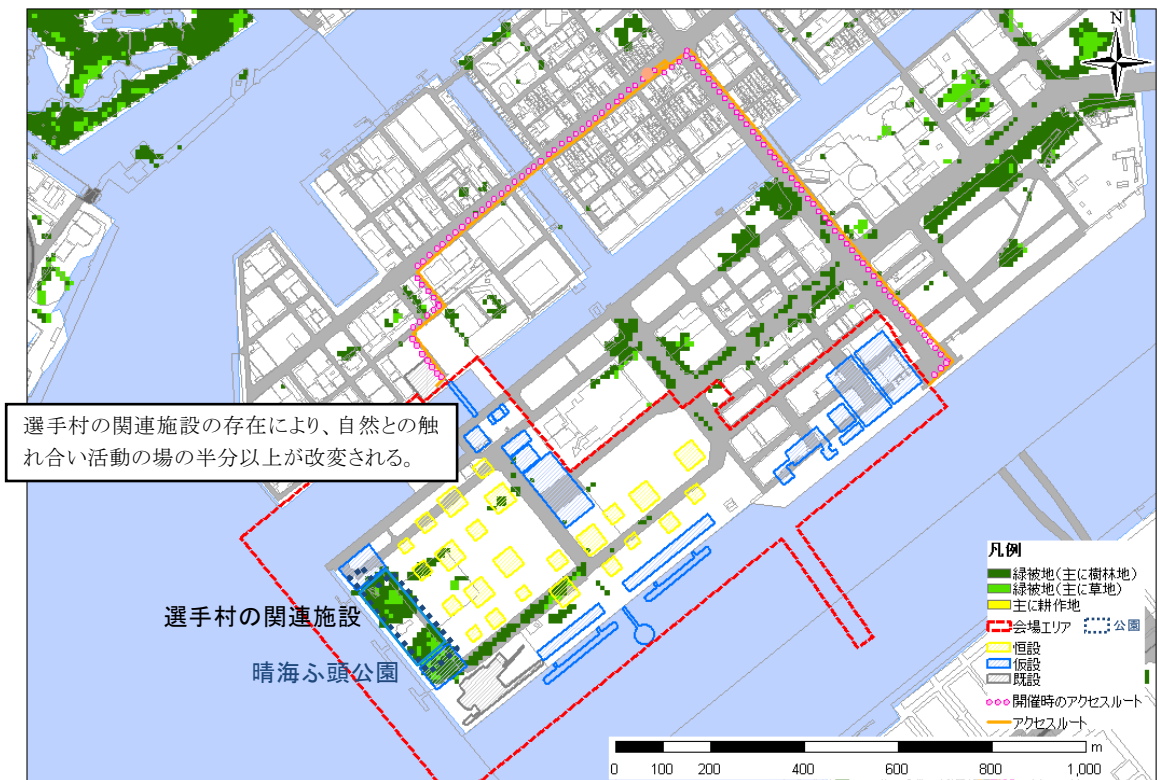


図 5-11-2 (9) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ (0V 選手村)

② ミティゲーション

ミティゲーションの内容は、表 5-11-6(p5-11-16)に示すとおりである。

有明アリーナ、有明BMXコース、有明ベロドローム、有明体操競技場については、現況では自然との触れ合い活動の場となっていないが、水と緑豊かなうるおいのある新たなまちづくりの一環として有明親水海滨公園（仮称）を整備し、緩傾斜護岸や汐入など海の生物に触れ合える水辺空間の形成により、新たな自然との触れ合い活動の場の創出を図る。

有明テニスの森については、一次評価の結果をふまえ、入口付近に芝生広場を整備するとともに改変される樹木を移植することにより、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。

夢の島公園、夢の島競技場については、一次評価の結果をふまえ、改変される樹木を会場エリア内に移植することにより、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。

オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナについては、一次評価の結果をふまえ、改変される樹木を移植するとともに、自然と調和した水辺空間(水上デッキ)の整備により、自然との触れ合い活動の場の増加、質の向上を図る。

潮風公園、大井ホッケー競技場、葛西臨海公園については一次評価の結果、芝生広場が改変され、若洲オリンピックマリーナについてはキャンプ場や人工磯、選手村については公園全体が改変されることとなるが、開催中における会場エリア内の利用の主目的は競技の実施であることから、現段階では会場エリア内における自然との触れ合い活動の場を改善するためのミティゲーションは想定していない。

なお、海の森クロスカントリーコースについては、現況では自然との触れ合い活動の場となっていないが、都心の既存大規模緑地を幹線道路の街路樹で結び、風の道を創出する「水と緑の回廊」を形成するための起点として水辺空間の整備を行い、新たな自然との触れ合い活動の場の創出を図る。

一次評価で、予測対象とした会場のうち、施設の存在による改変部が自然との触れ合い活動の場の主要部又は周縁部でない、その他の会場については、現況と変わらないことから、現段階ではミティゲーションは想定していない。

ただし、全ての会場において、実施段階における計画の具体化に併せ、親水性の向上や魅力ある水辺空間の整備など人と自然のふれあい活動の促進と場の確保について可能な限り検討することとする。

表 5-11-6 自然との触れ合い活動の場の改善・創出に関するミティゲーションの内容（開催中）

会場 No.	会場名	ミティゲーションの内容
8	有明アリーナ	有明親水海浜公園（仮称）として、緩傾斜護岸や汐入など海の生物にふれあえる水辺空間の整備により、新たな自然との触れ合い活動の場の創出を図る。
9	有明BMXコース	
10	有明ベロドローム	
11	有明体操競技場	
12	有明テニスの森	入口付近に芝生広場を整備するとともに改変される樹木を移植することにより、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。
18	海の森クロスカンントリーコース	「水と緑の回廊」の起点となる大規模な樹林の整備により、自然との触れ合い活動の場の創出を図る。
25	夢の島公園	改変される樹木を会場エリア内に移植することにより、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。
26	夢の島競技場	
27～ 28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	改変される樹木を移植するとともに、自然と調和した水辺空間(水上デッキ)の整備により、自然との触れ合い活動の場の改善・創出を図る。

③ 二次評価

予測評価の結果は、表 5-11-7(p5-11-18)に示すとおりである。

有明アリーナ、有明BMXコース、有明ベロドローム、有明体操競技場については、一次評価の結果、現況で自然との触れ合い活動の場となっていないが、ミティゲーションの実施により自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が一部向上すると予測し、評価結果は「+1」とした。

有明テニスの森、夢の島公園については、一次評価の結果、自然との触れ合い活動の場の周縁部が改変されることとなるが、ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場は現況レベルまで改善すると予測し、評価結果は「0」とした。

若洲オリンピックマリーナ、潮風公園、大井ホッケー競技場、葛西臨海公園、選手村については、一次評価の結果、自然との触れ合い活動の場が改変されることとなるが、開催中における会場エリア内の利用の主目的は競技の実施であることから、現段階では会場エリア内における自然との触れ合い活動の場を改善するためのミティゲーションは想定せず、評価結果は「-2」又は「-1」とした。

海の森クロスカントリーコースについては、一次評価の結果、現況で自然との触れ合い活動の場となっていないが、ミティゲーションの実施により自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が全般的に向上すると予測し、評価結果は「+2」とした。

夢の島競技場については、一次評価の結果、自然との触れ合い活動の場が半分以上改変されることとなるが、改変される樹木を会場エリア内に移植することにより、自然との触れ合い活動の場が部分的に改善すると予測し、評価結果は「-1」とした。

オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナについては、一次評価の結果、自然との触れ合い活動の場の周縁部が改変されることとなるが、ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が一部向上すると予測し、評価結果は「+1」とした。

また、対象とした会場のうち、会場エリアが自然との触れ合い活動の場となっていないその他の会場については、現況と変わらないことから現段階ではミティゲーションは想定しておらず、評価結果は「0」とした。

表 5-11-7 各会場における自然との触れ合い活動の場の予測評価結果（開催中：二次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (二次評価)	予測結果
8	有明アリーナ	+ 1	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が一部向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+ 1」とした。
9	有明BMXコース		
10	有明ベロドローム		
11	有明体操競技場		
12	有明テニスの森	0	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が現況レベルまで改善すると予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
25	夢の島公園		
18	海の森クロスカントリーコース	+ 2	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が全般的に向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+ 2」とした。
14	潮風公園	- 1	施設の存在により、自然との触れ合い活動の場の周縁部が改変される。 したがって、評価結果は「- 1」とした。
17	大井ホッケー競技場		
22	葛西臨海公園		施設の存在により、自然との触れ合い活動の場の半分以上が改変される。ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が部分的に改善すると予測した。 したがって、評価結果は「- 1」とした。
26	夢の島競技場		
27～ 28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	+ 1	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が一部向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+ 1」とした。
21	若洲オリンピックマリーナ	- 2	施設の存在により、自然との触れ合い活動の場の主要部又は半分以上が改変される。 したがって、評価結果は「- 2」とした。
0V	選手村		
対象とした会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 1, 13, 19, 20, 23～24, 29, 31, 32, 33, IBC/MPC の 11 会場)		0	自然との触れ合い活動の場は現況と変わらない。 したがって、評価結果は「0」とした。

2) 開催後（後利用による影響）

① 一次評価

予測評価の結果は、表 5-11-8(p5-11-20)に示すとおりである。

会場内の仮設の撤去や各会場の後利用による、自然との触れ合い活動の場の変化について予測評価を行った。

会場毎に自然との触れ合い活動の場の分布（緑被分布図）と各会場の改変区域を重ね合わせた結果、会場エリアが自然との触れ合い活動の場となっている 10 会場で、自然との触れ合い活動の場が改変されると予測した。

有明テニスの森、夢の島公園、夢の島競技場、選手村については、自然との触れ合い活動の場の主要部は改変されないものの、自然との触れ合い活動の場の半分以上が改変されることから、評価結果は「－2」とした。

若洲オリンピックマリーナについては、施設の後利用により、キャンプ場と人工磯のほとんどが改変されたままの状態が継続することから、自然との触れ合い活動の場の主要部が改変されると予測し、評価結果は「－2」とした。

その他の 5 会場については、施設の後利用により芝生、樹林が改変されたままの状態が継続することから、自然との触れ合い活動の場の周縁部が改変されると予測し、評価結果は「－1」とした。

対象とした会場のうち、上記会場を除くその他の会場では現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。

表 5-11-8 各会場における自然との触れ合い活動の場の予測評価結果（開催後：一次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測結果
12	有明テニスの森	－ 2	施設の後利用により、自然との触れ合い活動の場の半分以上が改変されると予測した。 したがって、評価結果は「－ 2」とした。
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
0V	選手村		
21	若洲オリンピックマリーナ		施設の後利用においても、キャンプ場、人工磯のほとんどが改変されたままとなることから、自然との触れ合い活動の主要部が改変されると予測した。 したがって、評価結果は「－ 2」とした。
14	潮風公園	－ 1	施設の後利用により、芝生、樹林が改変されたままとなることから、自然との触れ合い活動の周縁部が改変されると予測した。 したがって、評価結果は「－ 1」とした。
17	大井ホッケー競技場		
22	葛西臨海公園		
27～ 28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
会 場 No.1, 13, 23～24, 31, IBC/MPC の 6 会場		0	施設の後利用による改変部が、自然との触れ合い活動の場の主要部や周縁部ではない、又は半分弱に満たないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
会場 No.8, 9, 10, 11, 18, 19, 20, 29, 32, 33 の 10 会場			自然との触れ合い活動の場となっていないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。

② ミティゲーション

ミティゲーションの内容は、表 5-11-9(p5-11-22)に示すとおりである。

有明アリーナ、有明BMXコース、有明ベロドローム、有明体操競技場については、現況では自然との触れ合い活動の場となっていないが、水と緑豊かなうろちのある新たなまちづくりの一環として有明親水海滨公園（仮称）を整備し、緩傾斜護岸や汐入など海の生物に触れ合える水辺空間の形成により、新たな自然との触れ合い活動の場の創出を図る。

有明テニスの森については、一次評価の結果をふまえ、入口付近に芝生広場を整備するとともに改変される樹木を移植することにより、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。

潮風公園、大井ホッケー競技場、夢の島公園、夢の島競技場については、一次評価の結果をふまえ、仮設撤去後の原状復帰により、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。

海の森クロスカントリーコースについては、現況では自然との触れ合い活動の場となっていないが、都心の既存大規模緑地を幹線道路の街路樹で結び風の道を創出する「水と緑の回廊」を形成するための起点として水辺空間の整備を行い、新たな自然との触れ合い活動の場の創出を図る。海の森水上競技場は、東京都民の新しい水辺のレクリエーションの場として利用する。

若洲オリンピックマリーナについては、一次評価の結果、自然との触れ合い活動の主要部が改変されるが、仮設撤去後にキャンプ場を再整備し公園の一部として残すとともに、施設の後利用として、セーリングの国際大会の他マリンスポーツに利用することにより、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。

葛西臨海公園については、一次評価の結果、面積の大きな芝生広場が改変されるが、施設の後利用として、カヌー場など人と自然、水との触れ合いの場として利用することにより、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。

オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナについては、一次評価の結果をふまえ、改変される樹木を移植するとともに、自然と調和した水辺空間(水上デッキ・砂浜)の整備により、自然との触れ合い活動の場の増加、質の向上を図る。

選手村では、一次評価の結果をふまえ、緑あふれるオリンピックパークとして再整備を行うことにより、自然との触れ合い活動の場の増加、質の向上を図る。

対象とした会場のうち、上記会場を除くその他の会場については現況と変わらないことから、現段階ではミティゲーションは想定していない。なお、実施段階においては、2020年東京大会開催に伴う付帯施設の機能充実や知名度向上を契機として、開催後により一層都民に受け入れられるよう、計画の具体化に併せ、親水性の向上や魅力ある水辺空間の整備など人と自然のふれあい活動の促進と場の確保について可能な限り検討することとする。

表 5-11-9 自然との触れ合い活動の場の改善・創出に関するミティゲーションの内容（開催後）

会場 No.	会場名	ミティゲーションの内容
8	有明アリーナ	有明親水海浜公園（仮称）として、緩傾斜護岸や 汐入など海の生物に触れ合える水辺空間の整備により、 新たな自然との触れ合い活動の場の創出を図る。
9	有明BMXコース	
10	有明ベロドローム	
11	有明体操競技場	
12	有明テニスの森	芝生広場の整備、樹木の会場内移植により、自然 との触れ合い活動の場の改善を図る。
14	潮風公園	仮設撤去後の原状復帰により、自然との触れ合い 活動の場の改善を図る。
17	大井ホッケー競技場	
25	夢の島公園	
26	夢の島競技場	
18	海の森クロスカントリー コース	「水と緑の回廊」の起点となる大規模な樹林の整備 により、自然との触れ合い活動の場の創出を図る。
19	海の森水上競技場	水辺空間の整備により、自然との触れ合い活動の 場の創出を図る。
21	若洲オリンピックマリーナ	仮設撤去後にキャンプ場を再整備し公園の一部と して残すとともに、施設の後利用として、セーリン グの国際大会の他マリンスポーツに利用すること により、自然との触れ合い活動の場の改善を図る。
22	葛西臨海公園	カヌー場など人と自然、水との触れ合いの場とし て利用することにより、自然との触れ合い活動の場 の改善を図る。
27～28	オリンピックアクアティ クスセンター ウォーターポロアリーナ	改変される樹木を移植するとともに、自然と調和 した水辺空間（水上デッキ・砂浜）の整備により、自 然との触れ合い活動の場の創出を図る。
OV	選手村	緑あふれるオリンピックパークとして再整備する ことにより、自然との触れ合い活動の場の創出を図 る。

③ 二次評価

予測評価の結果は、表 5-11-10 (p5-11-24)に示すとおりである。

有明アリーナ、有明BMXコース、有明ベロドローム、有明体操競技場については、ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が一部向上すると予測し、評価結果は「+1」とした。

海の森クロスカントリーコース、海の森水上競技場については、ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が全般的に向上すると予測し、評価結果は「+2」とした。

オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナについても、ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が一部向上すると予測し、評価結果は「+1」とした。

有明テニスの森、潮風公園、大井ホッケー競技場、夢の島公園、夢の島競技場、選手村については、一次評価の結果、自然との触れ合い活動の場の半分以上の改変、又は周縁部が改変されることとなるが、ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場は、現況レベルまで改善すると予測し、評価結果は「0」とした。

若洲オリンピックマリーナについては、一次評価の結果、自然との触れ合い活動の主要部であるキャンプ場と人工磯が改変されることとなる。ミティゲーションの実施により、仮設撤去後にキャンプ場を再整備し公園の一部として残すことで自然との触れ合い活動の場の改善を図るとともに、施設の後利用として、セーリングの国際大会の他マリンスポーツに利用することで新たな自然との触れ合い活動の場を創出するものの、現況レベルまでは達しないと予測し、評価結果は「-1」とした。

葛西臨海公園については、施設の後利用により広い面積の芝生広場が消失するが、施設の後利用として、カヌー場など人と自然、水との触れ合い活動の場として利用することで新たな自然との触れ合い活動の場を創出するものの、現況レベルまでは達しないと予測し、評価結果は「-1」とした。

また、対象とした会場のうち、その他の会場については、現況と変わらないことから、現段階ではミティゲーションは想定しておらず、評価結果は「0」とした。

表 5-11-10 各会場における自然との触れ合い活動の場の予測評価結果（開催後：二次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (二次評価)	予測結果
8	有明アリーナ	+ 1	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が一部向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+ 1」とした。
9	有明BMXコース		
10	有明ベロドローム		
11	有明体操競技場		
18	海の森クロスカントリーコース	+ 2	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が全般的に向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+ 2」とした。
19	海の森水上競技場		
12	有明テニスの森	0	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が現況レベルまで改善すると予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
14	潮風公園		
17	大井ホッケー競技場		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
0V	選手村		
27～ 28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	+ 1	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場が新たに創出され、質が一部向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+ 1」とした。
21	若洲オリンピックマリーナ	- 1	自然との触れ合い活動の場の主要部が改変されることとなる。ミティゲーションの実施により自然との触れ合い活動の場が改善されるとともに、新たな自然との触れ合い活動の場が創出されるものの、現況レベルまでは達しないと予測した。 したがって、評価結果は「- 1」とした。
22	葛西臨海公園		自然との触れ合い活動の場の周縁部が改変されることとなる。ミティゲーションの実施により新たな自然との触れ合い活動の場が創出されるものの、現況レベルまでは達しないと予測した。 したがって、評価結果は「- 1」とした。
対象とした会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 1, 13, 20, 23～24, 29, 31, 32, 33, IBC/MPC の 10 会場)		0	自然との触れ合い活動の場は現況と変わらない。 したがって、評価結果は「0」とした。

(4) 評価結果の総括

自然との触れ合い活動の場(自然との触れ合い活動の場の変化)の一次評価及び二次評価結果をとりまとめると表 5-11-11 (p5-11-26)のとおりとなる。

開催中は、会場エリアが自然との触れ合い活動の場となっている会場でミティゲーションの実施によりプラス評価となるが、一部の会場では、現段階ではミティゲーションは想定していないため、二次評価でも一時的にマイナス評価が残る。若洲オリンピックマリーナ、葛西臨海公園では、開催後(後利用)においても、マイナス評価が残る。

有明アリーナ、有明BMXコース、有明ベロドローム、有明体操競技場、海の森クロスカンントリーコース、海の森水上競技場、オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナでは、新たな水辺空間が整備されるため、プラス評価となる。

表 5-11-11 自然との触れ合い活動の場の評価結果総括表(自然との触れ合い活動の場の変化)

会場		評価点(一次)						評価点(二次)					
No.	名称	開催前		開催中		開催後		開催前		開催中		開催後	
		工事 影響	招致等 の影響	存在 影響	競技の 影響	工事 影響	後利用 の影響	工事 影響	招致等 の影響	存在 影響	競技の 影響	工事 影響	後利用 の影響
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	-		0		-	0	-		0		-	0
2	東京体育館	-		-		-	-	-		-		-	-
3	国立代々木競技場	-		-		-	-	-		-		-	-
4	日本武道館	-		-		-	-	-		-		-	-
5	皇居外苑	-		-		-	-	-		-		-	-
6	東京国際フォーラム	-		-		-	-	-		-		-	-
7	国技館	-		-		-	-	-		-		-	-
8	有明アリーナ	-		0		-	0	-		+1		-	+1
9	有明BMXコース	-		0		-	0	-		+1		-	+1
10	有明ベロドローム	-		0		-	0	-		+1		-	+1
11	有明体操競技場	-		0		-	0	-		+1		-	+1
12	有明テニスの森	-		-2		-	-2	-		0		-	0
13	お台場海浜公園	-		0		-	0	-		0		-	0
14	潮風公園	-		-1		-	-1	-		-1		-	0
15～16	東京ビッグサイト・ホールA、B	-		-		-	-	-		-		-	-
17	大井フッカー競技場	-		-1		-	-1	-		-1		-	0
18	海の森クロスカントリーコース	-		0		-	0	-		+2		-	+2
19	海の森水上競技場	-		0		-	0	-		0		-	+2
20	海の森マウンテンバイクコース	-		0		-	0	-		0		-	0
21	若洲オリンピックマリーナ	-		-2		-	-2	-		-2		-	-1
22	葛西臨海公園	-		-1		-	-1	-		-1		-	-1
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	-		0		-	0	-		0		-	0
25	夢の島公園	-		-2		-	-2	-		0		-	0
26	夢の島競技場	-		-2		-	-2	-		-1		-	0
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	-		-1		-	-1	-		+1		-	+1
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	-		0		-	0	-		0		-	0
30	東京スタジアム	-		-		-	-	-		-		-	-
31	武蔵野の森公園	-		0		-	0	-		0		-	0
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	-		0		-	0	-		0		-	0
33	霞ヶ関カンツリー倶楽部	-		0		-	0	-		0		-	0
34	札幌ドーム	-		-		-	-	-		-		-	-
35	宮城スタジアム	-		-		-	-	-		-		-	-
36	埼玉スタジアム2002	-		-		-	-	-		-		-	-
37	横浜国際総合競技場	-		-		-	-	-		-		-	-
OV	選手村	-		-2		-	-2	-		-2		-	0
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	-		0		-	0	-		0		-	0

※会場No.は、表 1-3-37(p1-85～1-86)に示す会場No.を表す。

※評価点の目安は以下のとおりである。

+2: 大きなプラスの影響

+1: ある程度のプラスの影響

0: 中立

-1: ある程度のマイナスの影響

-2: 大きなマイナスの影響

—: 予測評価の検討において対象外とした影響

■: 網掛けは非該当項目のため対象外とした影響

5-11-2-2 自然との触れ合い活動の変化

(1) 評価の指標及び目安

自然との触れ合い活動の変化は、自然との触れ合い活動の阻害又は促進の有無を評価の基準とした。

評価の指標及び目安は、表 5-11-12 に示すとおりである。

表 5-11-12 評価の指標及び目安

評価の指標	評価の基準	評価の目安				
		－ 2	－ 1	0	＋ 1	＋ 2
自然との触れ合い活動の変化	自然との触れ合い活動の阻害又は促進（場へのアクセス性含む）の有無	活動自体及びアクセス性の阻害あり	活動自体又はアクセス性の阻害あり	現況と変わらない	活動の向上（利用者の増加）又はアクセス性の向上があり	活動の向上（利用者の増加）及びアクセス性の向上があり

(2) 予測評価の方法

工事に伴い生じる水質の変化や騒音、アクセス規制、競技の実施に伴い生じる騒音やアクセス規制、会場内の施設の存在によるアクセス歩道の改変・遮断、後利用に伴い生じる騒音やアクセス歩道の改変・遮断による、会場エリア内における自然との触れ合い活動の阻害又は促進(場へのアクセス性含む)について、定性的に予測評価を行った。

表 5-11-13 予測評価方法（会場別）

予測評価の時期		予測評価の方法
開催前	工事による影響	開催前の工事の実施に伴い生じる水質の変化や工事騒音、アクセス規制による、自然との触れ合い活動の阻害について、定性的な予測評価を行った。
開催中	施設の存在による影響	開催中の施設の存在に伴うアクセス歩道の改変・遮断による、自然との触れ合い活動の阻害について、定性的な予測評価を行った。
	競技の実施による影響	開催中の競技の実施に伴い生じる歓声・応援等の騒音やアクセス規制による、自然との触れ合い活動の阻害について、定性的な予測評価を行った。
開催後	工事による影響	開催後の仮設撤去工事の実施に伴い生じる水質の変化や工事騒音、アクセス規制による、自然との触れ合い活動の阻害又は促進について、定性的な予測評価を行った。
	後利用による影響	開催中の施設の後利用に伴い生じる歓声・応援等の騒音、アクセス歩道の改変・遮断による、自然との触れ合い活動の阻害又は促進について、定性的な予測評価を行った。

(3) 予測評価の結果

1) 開催前（工事による影響）

① 一次評価

開催中の工事の実施に伴い生じる水質の変化や騒音、アクセス規制による、自然との触れ合い活動の変化について、予測評価を行った。予測評価の結果は、表 5-11-14 (p5-11-30)に示すとおりである。

『5-2 水質』、『5-8 騒音』での予測評価結果によれば、開催中の工事の実施により、一時的ではあるが、若洲オリンピックマリーナにおいて水質への影響が生じるとともに、各会場において騒音が生じると予測されている。

現況で自然との触れ合い活動が行われている 20 会場では、工事に伴って生じる騒音(若洲オリンピックマリーナは水質も含む)及びアクセス規制により、会場エリア内の自然との触れ合い活動自体及びアクセスが阻害されると予測し、評価結果は「－2」とした。

自然との触れ合い活動が行われていないその他の会場については、現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。

表 5-11-14 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催前：一次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測結果
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	- 2	開催中の工事に伴い生じる騒音、アクセス規制により、自然との触れ合い活動自体及びアクセスが阻害されると予測した。 したがって、評価結果は「- 2」とした。
2	東京体育館		
4	日本武道館		
12	有明テニスの森		
13	お台場海浜公園		
14	潮風公園		
17	大井ホッケー競技場		
22	葛西臨海公園		
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
31	武蔵野の森公園		
35	宮城スタジアム		
36	埼玉スタジアム 2002		
37	横浜国際総合競技場		
0V	選手村		
21	若洲オリンピックマリーナ		開催中の工事に伴い生じる騒音・水質の変化、アクセス規制により、自然との触れ合い活動自体及びアクセスが阻害されると予測した。 したがって、評価結果は「- 2」とした。
全会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場)		0	自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。

② ミティゲーション

一次評価の結果をふまえ、各会場において工事に伴い生じる騒音レベルの低減、代替となるアクセスの確保を目的として実施するミティゲーションの内容は表 5-11-15 に示すとおりである。

表 5-11-15 自然との触れ合い活動の促進に関するミティゲーションの内容（開催前）

会場 No.	会場名	ミティゲーションの内容
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	○工事騒音レベルの低減 ・ 低騒音型建設機械の使用、規制速度の遵守、走行ルート の限定、安全走行、過積載の防止、防音対策等を指導し、 走路交通騒音の低減を図る。 ○代替アクセスの確保 ・ 出入口の位置の変更、利用経路の新設、迂回路の設 置など、公園内における自然との触れ合い活動の場 への代替アクセスを確保する。
2	東京体育館	
4	日本武道館	
12	有明テニスの森	
13	お台場海浜公園	
14	潮風公園	
17	大井ホッケー競技	
22	葛西臨海公園	
23～24	夢の島ユース・プラザ・ア リーナ A、B	
25	夢の島公園	
26	夢の島競技場	
27～28	オリンピックアクアティ クスセンター ウォーターポロアリーナ	
31	武蔵野の森公園	
35	宮城スタジアム	
36	埼玉スタジアム 2002	
37	横浜国際総合競技場	
0V	選手村	
21	若洲オリンピックマリー ナ	○工事騒音レベルの低減 ・ 低騒音型建設機械の使用、規制速度の遵守、走行ル ートの限定、安全走行、過積載の防止、防音対策等 を指導し、走路交通騒音の低減を図る。 ○水質汚濁の低減 ・ 濁りの発生する工事を実施する際には、工事水域 周辺に汚濁防止膜を展張し、濁りの拡散を抑制す るなど、濁りの発生が少ない工法を採用する。 ○代替アクセスの確保 ・ 出入口の位置の変更、利用経路の新設、迂回路の設 置など、公園内における自然との触れ合い活動の場 への代替アクセスを確保する。
全会場のうち、上記会場を除くその他の 会場 （会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15 ～ 16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場）		自然との触れ合い活動が行われておらず、現況と変 わらないため、現段階ではミティゲーションは想定し ていない。

③ 二次評価

自然との触れ合い活動が行われている 20 会場について、一次評価の結果、自然との触れ合い活動自体及びアクセスが阻害されるが、ミティゲーションの実施により、現況レベルまで自然との触れ合い活動が改善すると予測した。

その他の会場についても現況で自然との触れ合い活動が行われていないことから、各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。

表 5-11-16 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催前：二次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (二次評価)	予測結果
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	0	ミティゲーションの実施により、現況レベルまで自然との触れ合い活動が改善すると予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
2	東京体育館		
4	日本武道館		
12	有明テニスの森		
13	お台場海浜公園		
14	潮風公園		
17	大井ホッケー競技場		
21	若洲オリンピックマリーナ		
22	葛西臨海公園		
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
31	武蔵野の森公園		
35	宮城スタジアム		
36	埼玉スタジアム 2002		
37	横浜国際総合競技場		
OV	選手村		
全会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場)			自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらない。 したがって、評価結果は「0」とした。

2) 開催中（施設の存在による影響）

① 一次評価

会場内の施設の存在による、自然との触れ合い活動の変化について予測評価を行った。

会場毎に自然との触れ合い活動の場（緑被分布図；平成 19 年、国土交通省都市・地域整備局）への主要なアクセスルートと各会場の改変区域を重ね合わせた結果（図 5-11-3(1)～(8)（p5-11-34～5-11-37）参照）、改変部が自然との触れ合い活動の場の主要なアクセスルート上にあるのは、日本武道館、有明テニスの森、潮風公園、若洲オリンピックマリーナ、夢の島公園、夢の島競技場、武蔵野の森公園、選手村の 8 会場である。

これらの 8 会場では、施設の存在により、自然との触れ合い活動の場の主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断又はアクセスが規制されるため、自然との触れ合い活動の場へのアクセスが阻害されると予測し、評価結果は「－1」とした。

現況で自然との触れ合い活動が行われている会場のうち、上記会場を除くその他の会場では、施設の存在による改変部は自然との触れ合い活動の場の主要なアクセスルート上にないことから、自然との触れ合い活動は現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。また、全会場のうち、自然との触れ合い活動が行われていない、その他の会場では、現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。

表 5-11-17 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催中：一次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測結果
4	日本武道館	－ 1	施設の存在により、自然との触れ合い活動の場の主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断又はアクセスが規制されるため、自然との触れ合い活動のアクセスが阻害されると予測した。 したがって、評価結果は「－ 1」とした。
12	有明テニスの森		
14	潮風公園		
21	若洲オリンピックマリーナ		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
31	武蔵野の森公園		
OV	選手村		
会場 No. 1, 2, 13, 17, 22, 23～24, 27～28, 35, 36, 37 の 12 会場		0	自然との触れ合い活動の場への主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断されないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場			自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。



図 5-11-3(1) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(4 日本武道館)



図 5-11-3(2) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(12 有明テニスの森)



図 5-11-3(3) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(14 潮風公園)



図 5-11-3(4) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ
(21 若洲オリンピックマリーナ)

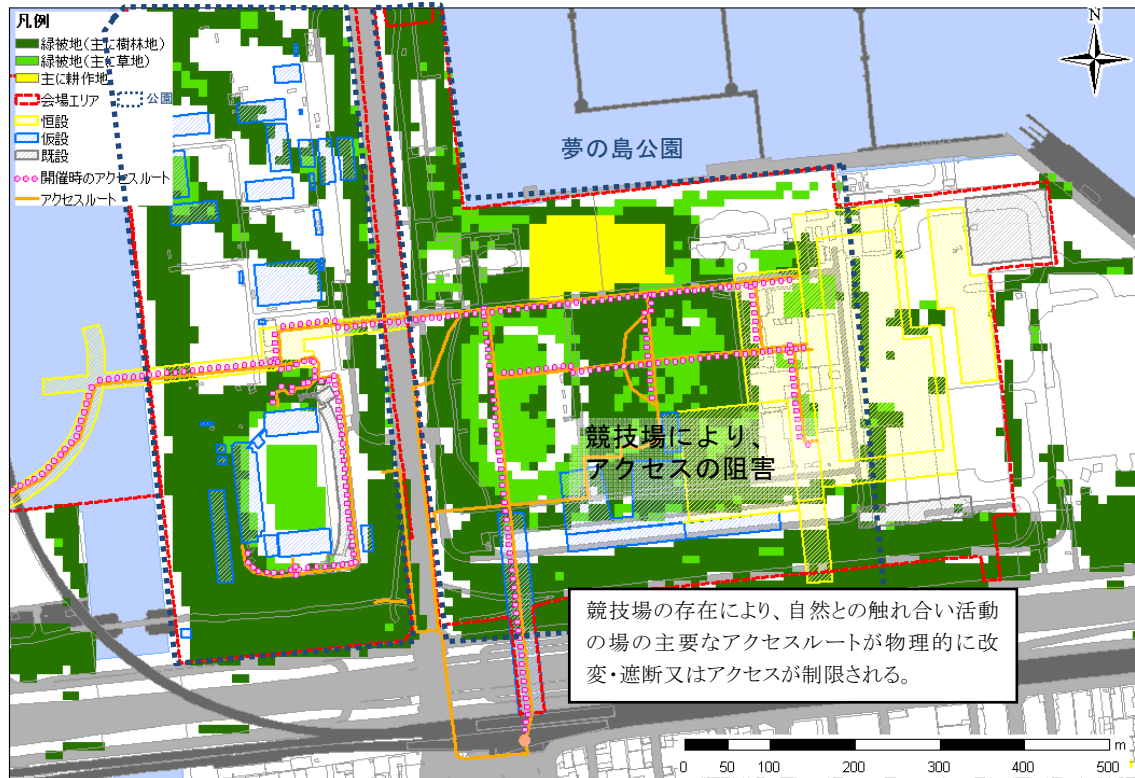


図 5-11-3(5) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(25 夢の島公園)

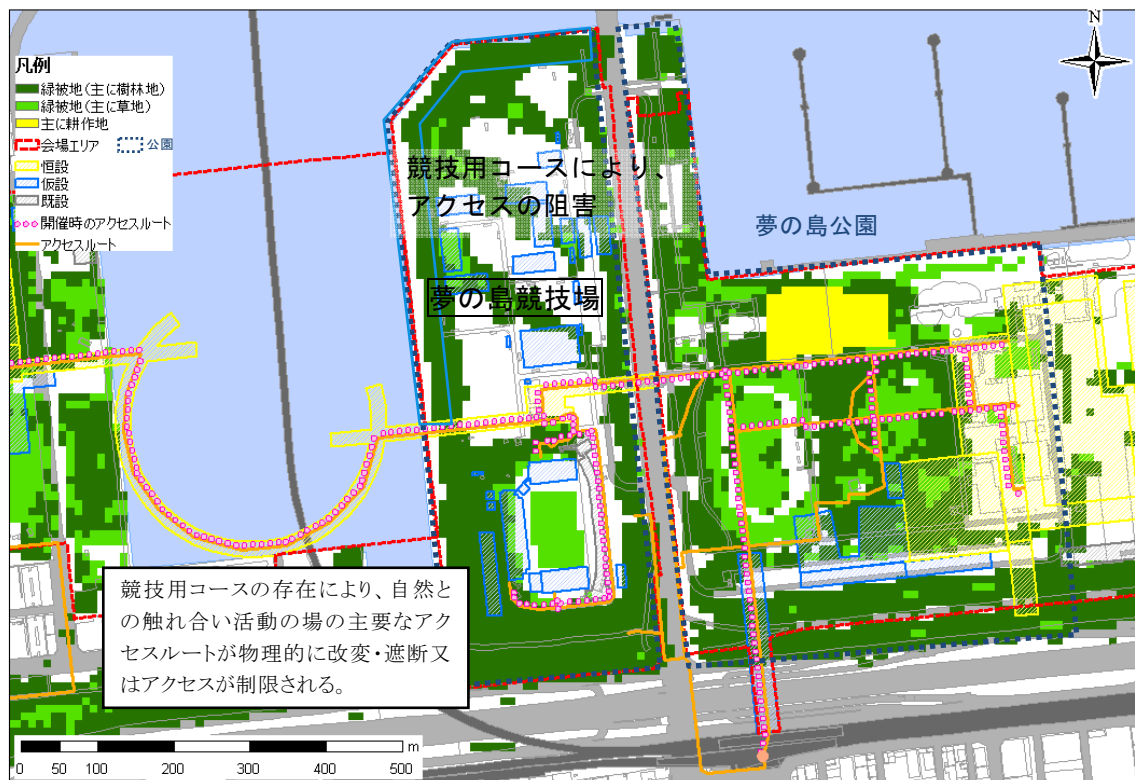


図 5-11-3(6) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(26 夢の島競技場)



図 5-11-3(7) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(31 武蔵野の森公園)

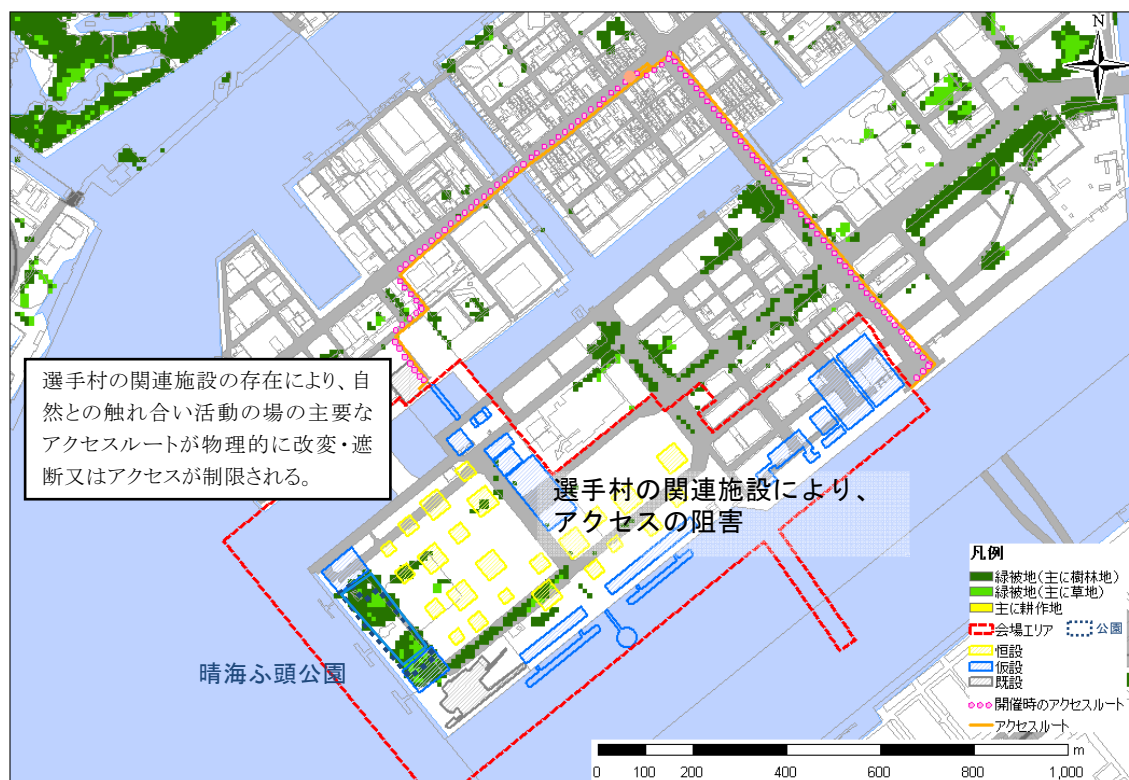


図 5-11-3(8) 自然との触れ合い活動の場と改変区域の重ね合わせ(0V 選手村)

② ミティゲーション

一次評価の結果をふまえ、各会場において、新たな自然との触れ合い活動の促進を目的として実施するミティゲーションの内容は表 5-11-18 に示すとおりである。

表 5-11-18 自然との触れ合い活動の促進に関するミティゲーションの内容（開催中）

会場 No.	会場名	ミティゲーションの内容
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	○アクセス性の向上 ・ 入口広場、歩道、歩行者デッキの整備など、公園内における自然との触れ合い活動の場へのアクセス性の向上を図る。
2	東京体育館	
12	有明テニスの森	
22	葛西臨海公園	
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナ A、B	
25	夢の島公園	
26	夢の島競技場	
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	
0V	選手村	
14	潮風公園	○代替アクセスの確保 ・ 出入口の位置の変更、利用経路の新設、迂回路の設置など、公園内における自然との触れ合い活動の場への代替アクセスを確保する。
21	若洲オリンピックマリーナ	
31	武蔵野の森公園	
4	日本武道館	一次評価の結果、自然との触れ合い活動の場へのアクセスが阻害されることとなるが、開催中における会場エリア内の利用の主目的は、オリンピック競技の実施であることから、現段階では会場エリア内における自然との触れ合い活動の場へのアクセスを改善するためのミティゲーションは想定していない。
会場 No. 13, 17, 35, 36, 37 の 5 会場		一次評価の結果、自然との触れ合い活動の場への主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断されず、現況と変わらないことから、現段階ではミティゲーションは想定していない。
会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場		自然との触れ合い活動が行われておらず、現況と変わらないことから、現段階ではミティゲーションは想定していない。

③ 二次評価

予測評価の結果は、表 5-11-19(p5-11-40)に示すとおりである。

有明テニスの森、夢の島公園、夢の島競技場、選手村については、一次評価の結果、主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断されることとなるが、歩行者デッキや歩道など新たなアクセスルートを整備することにより、自然との触れ合い活動の場へのアクセス性が向上すると予測し、評価結果は「+1」とした。

オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)、東京体育館、葛西臨海公園、夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B、オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナについては、一次評価の結果、アクセスは阻害されないが、歩行者デッキの整備により、自然との触れ合い活動の場へのアクセス性が向上すると予測し、評価結果は「+1」とした。

潮風公園、若洲オリンピックマリーナ、武蔵野の森公園については、一次評価の結果、主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断されることとなるが、公園内の自然との触れ合い活動の場への代替アクセスを確保することにより、自然との触れ合い活動の場へのアクセスが現況レベルまで改善すると予測し、評価結果は「0」とした。

日本武道館については、一次評価の結果、主要なアクセスルートが改変・遮断される。開催中における会場エリア内の利用の主目的は、競技の実施であり、現段階では会場エリア内における自然との触れ合い活動の場へのアクセスを改善するためのミティゲーションは想定していないことから、自然との触れ合い活動の場へのアクセスは阻害されると予測し、評価結果は「-1」とした。

全会場のうち、上記会場を除くその他の会場については、施設の存在による改変部は自然との触れ合い活動の場のアクセスルート上になく、自然との触れ合い活動が行われていないことから、いずれも現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。

表 5-11-19 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催中：二次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (二次評価)	予測結果
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	+ 1	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動の場へのアクセス性が向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+ 1」とした。
2	東京体育館		
12	有明テニスの森		
22	葛西臨海公園		
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナ A、B		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
0V	選手村		
14	潮風公園	0	ミティゲーションの実施により、現況レベルまで自然との触れ合い活動が改善すると予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
21	若洲オリンピックマリーナ		
31	武蔵野の森公園		
4	日本武道館	- 1	自然との触れ合い活動の場へのアクセスが阻害される。 したがって、評価結果は「- 1」とした。
会場 No. 13, 17, 35, 36, 37 の 5 会場		0	自然との触れ合い活動の場への主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断されないことから、現況と変わらない。 したがって、評価結果は「0」とした。
会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場			自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらない。 したがって、評価結果は「0」とした。

3) 開催中（競技の実施による影響）

① 一次評価

開催中の競技の実施による、自然との触れ合い活動の変化について予測評価を行った。

「5-8 騒音」での予測評価結果によれば、開催中の競技の実施により生じる騒音は、現況と同レベルである。

現況で自然との触れ合い活動が行われている 20 会場では、競技の実施中は、会場エリア内の入場が制限されるため、会場内における自然との触れ合い活動の場へのアクセスが阻害されると予測し、評価結果は「－1」とした。

全会場のうち、自然との触れ合い活動が行われていないその他の会場では、現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。

表 5-11-20 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催中：一次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測結果
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	－1	競技の実施により、会場エリア内の入場が制限されるため、会場内における自然との触れ合い活動の場へのアクセスが阻害されると予測した。 したがって、評価結果は「－1」とした。
2	東京体育館		
4	日本武道館		
12	有明テニスの森		
13	お台場海浜公園		
14	潮風公園		
17	大井ホッケー競技場		
21	若洲オリンピックマリーナ		
22	葛西臨海公園		
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
31	武蔵野の森公園		
35	宮城スタジアム		
36	埼玉スタジアム 2002		
37	横浜国際総合競技場		
0V	選手村		
全会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場)		0	自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。

② ミティゲーション

一次評価の結果、開催中の競技の実施に伴う会場エリア内の入場制限により、自然との触れ合い活動の場のアクセスが阻害されることとなるが、競技の実施中に会場エリア内にて自然との触れ合い活動を改善・促進することは困難であることから、現段階ではミティゲーションは想定していない。

③ 二次評価

一次評価の結果、開催中の競技の実施に伴う会場エリア内の入場制限により、自然との触れ合い活動のアクセスが阻害されることとなるが、競技の実施中に自然との触れ合い活動を改善・促進することは困難であることから、現段階ではミティゲーションの実施は想定していないため、評価結果は「－１」とした。

また、全会場のうち、上記会場を除くその他の会場については、現況と変わらないことから、現時点ではミティゲーションは想定しておらず、評価結果は「０」とした。

表 5-11-21 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催中：二次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (二次評価)	予測結果
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	－１	自然との触れ合い活動の場へのアクセスは阻害される。 したがって、評価結果は「－１」とした。
2	東京体育館		
4	日本武道館		
12	有明テニスの森		
13	お台場海浜公園		
14	潮風公園		
17	大井ホッケー競技場		
21	若洲オリンピックマリーナ		
22	葛西臨海公園		
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
31	武蔵野の森公園		
35	宮城スタジアム		
36	埼玉スタジアム 2002		
37	横浜国際総合競技場		
0V	選手村		
全会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場)		０	自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらない。 したがって、評価結果は「０」とした。

4) 開催後（工事による影響）

① 一次評価

会場内における仮設撤去工事の実施に伴い生じる水質の変化や騒音、アクセス規制による、自然との触れ合い活動の変化について、予測評価を行った。

『5-2 水質』、『5-8 騒音』での予測評価結果によれば、仮設撤去工事の実施による水質への影響はほとんどないものの、一時的ではあるが騒音が生じると予測されている。

このため、現況で自然との触れ合い活動が行われている会場については、工事に伴って生じる騒音や、アクセス規制により、自然との触れ合い活動自体及びアクセスが阻害されると予測し、評価結果は「－2」とした。

自然との触れ合い活動が行われていない会場については、現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。

表 5-11-22 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催後：一次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測結果
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	－2	仮設撤去工事に伴って生じる騒音、アクセス規制により、自然との触れ合い活動自体及びアクセスが阻害されると予測した。 したがって、評価結果は「－2」とした。
2	東京体育館		
4	日本武道館		
12	有明テニスの森		
13	お台場海浜公園		
14	潮風公園		
17	大井ホッケー競技場		
21	若洲オリンピックマリーナ		
22	葛西臨海公園		
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
31	武蔵野の森公園		
35	宮城スタジアム		
36	埼玉スタジアム 2002		
37	横浜国際総合競技場		
0V	選手村		
全会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場)		0	自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。

② ミティゲーション

一次評価の結果をふまえ、各会場において工事に伴って生じる騒音レベルの低減、代替となるアクセスの確保を目的として実施するミティゲーションの内容は表 5-11-23 に示すとおりである。

表 5-11-23 自然との触れ合い活動の促進に関するミティゲーションの内容（開催後）

会場 No.	会場名	ミティゲーションの内容
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	○工事騒音レベルの低減 ・ 低騒音型建設機械の使用、規制速度の遵守、走行ルート の限定、安全走行、過積載の防止、防音対策等を指 導し、走路交通騒音の低減を図る。 ○代替アクセスの確保 ・ 出入口の位置の変更、利用経路の新設、迂回路の設置 など、公園内における自然との触れ合い活動の場への 代替アクセスを確保する。
2	東京体育館	
4	日本武道館	
12	有明テニスの森	
13	お台場海浜公園	
14	潮風公園	
17	大井ホッケー競技場	
21	若洲オリンピックマリーナ	
22	葛西臨海公園	
23～24	夢の島ユース・プラザ・ア リーナ A、B	
25	夢の島公園	
26	夢の島競技場	
27～28	オリンピックアクアティク スセンター ウォーターポロアリーナ	
31	武蔵野の森公園	
35	宮城スタジアム	
36	埼玉スタジアム 2002	
37	横浜国際総合競技場	
0V	選手村	
全会場のうち、上記会場を除くその 他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15 ～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34 IBC/MPC の 19 会場)		現況で自然との触れ合い活動が行われていないことか ら、現段階ではミティゲーションは想定していない。

③ 二次評価

一次評価の結果、自然との触れ合い活動が行われている会場では、仮設撤去工事の実施により、自然との触れ合い活動が阻害されることとなるが、ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動が現況レベルまで改善すると予測し、評価結果は「0」とした。

表 5-11-24 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催後：二次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (二次評価)	予測結果
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	0	ミティゲーションの実施により、現況レベルまで自然との触れ合い活動が改善すると予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
2	東京体育館		
4	日本武道館		
12	有明テニスの森		
13	お台場海浜公園		
14	潮風公園		
17	大井ホッケー競技場		
21	若洲オリンピックマリーナ		
22	葛西臨海公園		
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
31	武蔵野の森公園		
35	宮城スタジアム		
36	埼玉スタジアム 2002		
37	横浜国際総合競技場		
0V	選手村		
全会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場)			自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらない。 したがって、評価結果は「0」とした。

5) 開催後（後利用による影響）

① 一次評価

予測評価の結果は、表 5-11-25 (p5-11-47) に示すとおりである。

会場内の施設の後利用による、自然との触れ合い活動の変化について予測評価を行った。

改変部が自然との触れ合い活動の場の主要なアクセスルート上にあるのは、日本武道館、有明テニスの森、潮風公園、若洲オリンピックマリーナ、夢の島公園、夢の島競技場、武蔵野の森公園、選手村の 8 会場である。

これらの会場については、自然との触れ合い活動の場への主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断されるため、自然との触れ合い活動のアクセスが阻害されると予測し、評価結果は「－1」とした。

自然との触れ合い活動が行われている会場のうち、上記会場を除くその他の会場では、施設の後利用による改変部は自然との触れ合い活動の場への主要なアクセスルート上にならないことから、現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。また、全会場のうち、自然との触れ合い活動が行われていないその他の会場では、現況と変わらないと予測し、評価結果は「0」とした。

表 5-11-25 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催後：一次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測結果
4	日本武道館	－ 1	施設の後利用により、自然との触れ合い活動の場への主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断されることにより、自然との触れ合い活動が阻害されると予測した。 したがって、評価結果は「－ 1」とした。
12	有明テニスの森		
14	潮風公園		
21	若洲オリンピックマリーナ		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
31	武蔵野の森公園		
0V	選手村		
会 場 No. 1, 2, 13, 17, 22, 23 ～ 24, 27 ～ 28, 35, 36, 37 の 12 会場		0	自然との触れ合い活動の場への主要なアクセスルートが物理的に改変・遮断されないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
会 場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15 ～ 16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場			自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。

② ミティゲーション

一次評価の結果をふまえ、各会場において、アクセス性の向上、新たな自然との触れ合い活動の促進を目的として実施するミティゲーションの内容は表 5-11-26 に示すとおりである。施設の後利用において自然との触れ合い活動の場となる会場については、2020 年東京大会開催に伴う付帯施設の機能充実や知名度向上を契機として、開催後により一層都民に受け入れられるよう、自然との触れ合い活動の促進に寄与するよう努めることとする。

表 5-11-26 自然との触れ合い活動の促進に関するミティゲーションの内容（開催後）

会場 No.	会場名	ミティゲーションの内容
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	○アクセス性の向上 ・ 入口広場、歩道、歩行者デッキの整備など、公園内における自然との触れ合い活動の場へのアクセス性の向上を図る。 ○自然との触れ合い活動の促進 ・ 自然との触れ合い活動のイベントの開催等により、自然との触れ合い活動の促進を図る。
2	東京体育館	
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナ A、B	
25	夢の島公園	
26	夢の島競技場	
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	
0V	選手村	
4	日本武道館	○仮設撤去後の原状復帰・代替アクセスの確保 ・ 仮設撤去後の原状復帰により、自然との触れ合い活動の場へのアクセスの改善を図る。 ・ 出入口の位置の変更、利用経路の新設、迂回路の設置など、公園内における自然との触れ合い活動の場への代替アクセスを確保する。 ○自然との触れ合い活動の促進 ・ 自然との触れ合い活動のイベントの開催等により、自然との触れ合い活動の促進を図る。
12	有明テニスの森	
13	お台場海浜公園	
14	潮風公園	
17	大井ホッケー競技場	
21	若洲オリンピックマリーナ	
22	葛西臨海公園	
31	武蔵野の森公園	
35	宮城スタジアム	
36	埼玉スタジアム 2002	
37	横浜国際総合競技場	
全会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場)		一次評価の結果、自然との触れ合い活動が行われておらず、現況と変わらないことから、現段階ではミティゲーションは想定していない。

③ 二次評価

現況で自然との触れ合い活動が阻害される会場については、アクセス性の向上や、自然との触れ合い活動の促進などのミティゲーションの実施により、すべての会場において、自然との触れ合い活動が向上すると予測し、評価結果は「+2」又は「+1」とした。

また、現況で自然との触れ合い活動が行われていないその他の会場については、現時点ではミティゲーションは想定しておらず、評価結果は「0」とした。

表 5-11-27 各会場における自然との触れ合い活動の予測評価結果（開催後：二次評価）

会場 No.	会場名	評価結果 (二次評価)	予測結果
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	+ 2	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動が向上するとともに自然との触れ合い活動の場へのアクセス性も向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+2」とした。
2	東京体育館		
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B		
25	夢の島公園		
26	夢の島競技場		
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ		
0V	選手村		
4	日本武道館	+ 1	ミティゲーションの実施により、自然との触れ合い活動が向上すると予測した。 したがって、評価結果は「+1」とした。
12	有明テニスの森		
13	お台場海浜公園		
14	潮風公園		
17	大井ホッケー競技場		
21	若洲オリンピックマリーナ		
22	葛西臨海公園		
31	武蔵野の森公園		
35	宮城スタジアム		
36	埼玉スタジアム 2002		
37	横浜国際総合競技場		
全会場のうち、上記会場を除くその他の会場 (会場 No. 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 15～16, 18, 19, 20, 29, 30, 32, 33, 34, IBC/MPC の 19 会場)		0	自然との触れ合い活動が行われていないことから、現況と変わらない。 したがって、評価結果は「0」とした。

(4) 評価結果の総括

自然との触れ合い活動の変化の一次評価及び二次評価結果をとりまとめると表5-11-28(p5-11-51)のとおりとなる。

開催中(施設の存在)の二次評価において、自然との触れ合い活動が行われている多くの会場で、自然との触れ合い活動の場へのアクセス性が向上するため、プラス評価となる。

開催中(競技の実施)には、二次評価においても、自然との触れ合い活動が行われている全会場で、自然との触れ合い活動の場へのアクセスが阻害されるため、一時的にマイナス評価となる。

開催後(後利用)には、ミティゲーションの実施により、現況で自然との触れ合い活動が行われている全会場でプラス評価となる。

表 5-11-28 自然との触れ合い活動の場の評価結果総括表(自然との触れ合い活動の変化)

会場		評価点(一次)						評価点(二次)					
No.	名称	開催前		開催中		開催後		開催前		開催中		開催後	
		工事 影響	招致等 の影響	存在 影響	競技の 影響	工事 影響	後利用 の影響	工事 影響	招致等 の影響	存在 影響	競技の 影響	工事 影響	後利用 の影響
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	-2		0	-1	-2	0	0		+1	-1	0	+2
2	東京体育館	-2		0	-1	-2	0	0		+1	-1	0	+2
3	国立代々木競技場	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
4	日本武道館	-2		-1	-1	-2	-1	0		-1	-1	0	+1
5	皇居外苑	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
6	東京国際フォーラム	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
7	国技館	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
8	有明アリーナ	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
9	有明BMXコース	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
10	有明ペドロローム	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
11	有明体操競技場	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
12	有明テニスの森	-2		-1	-1	-2	-1	0		+1	-1	0	+1
13	お台場海浜公園	-2		0	-1	-2	0	0		0	-1	0	+1
14	潮風公園	-2		-1	-1	-2	-1	0		0	-1	0	+1
15～16	東京ビッグサイト・ホールA、B	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
17	大井ホッケー競技場	-2		0	-1	-2	0	0		0	-1	0	+1
18	海の森クロスカントリーコース	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
19	海の森水上競技場	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
20	海の森マウンテンバイクコース	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
21	若洲オリンピックマリナ	-2		-1	-1	-2	-1	0		0	-1	0	+1
22	葛西臨海公園	-2		0	-1	-2	0	0		+1	-1	0	+1
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	-2		0	-1	-2	0	0		+1	-1	0	+2
25	夢の島公園	-2		-1	-1	-2	-1	0		+1	-1	0	+2
26	夢の島競技場	-2		-1	-1	-2	-1	0		+1	-1	0	+2
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	-2		0	-1	-2	0	0		+1	-1	0	+2
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
30	東京スタジアム	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
31	武蔵野の森公園	-2		-1	-1	-2	-1	0		0	-1	0	+1
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
33	霞ヶ関カンツリー倶楽部	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
34	札幌ドーム	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0
35	宮城スタジアム	-2		0	-1	-2	0	0		0	-1	0	+1
36	埼玉スタジアム2002	-2		0	-1	-2	0	0		0	-1	0	+1
37	横浜国際総合競技場	-2		0	-1	-2	0	0		0	-1	0	+1
0V	選手村	-2		-1	-1	-2	-1	0		+1	-1	0	+2
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0

※会場No.は、表 1-3-37(p1-85～1-86)に示す会場No.を表す。

※評価点の目安は以下のとおりである。

+2: 大きなプラスの影響

+1: ある程度のプラスの影響

0: 中立

-1: ある程度のマイナスの影響

-2: 大きなマイナスの影響

—: 予測評価の検討において対象外とした影響

■: 網掛けは非該当項目のため対象外とした影響

